

Musée Bernard Buffet



Buffet-Kun e-book vol.7

早くも折り返し地を過ぎた70周年。ジュリエットくんは20代後半…。

ベルナール・ジュリエットをもっと好きになる月刊紙!!

月刊ジュリエットくん

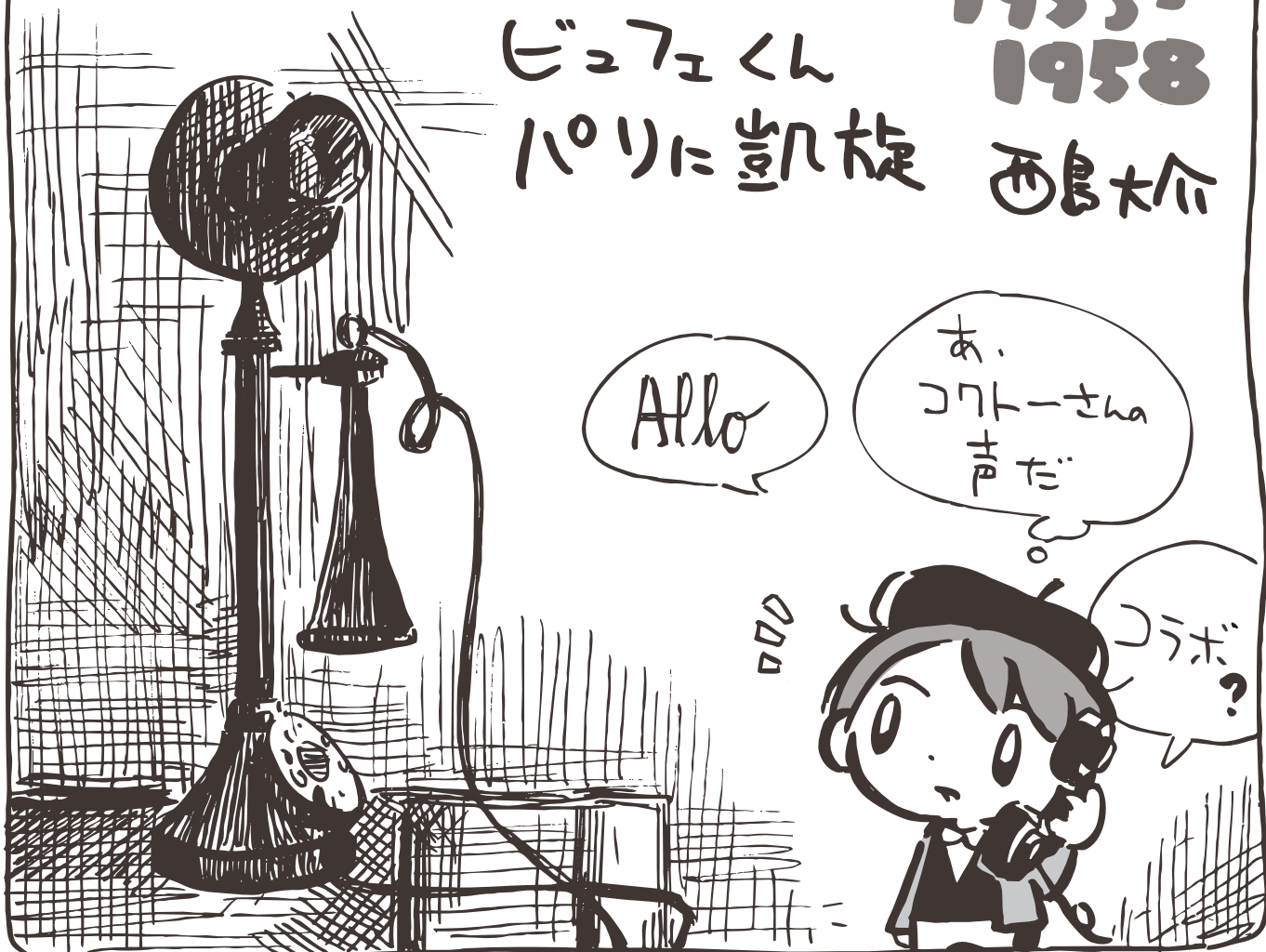
第7号

1955-1958

ジュリエットくん

パリに凱旋

西島大介



4年間の充実した南仏暮らしも一区切り、
ベルナール・ジュリエットはパリへ帰還します。

1955年パリ近郊ドーモンに転居。

同年、美術誌「コクサンス・テ・ザール（芸術の知識）」

による「戦後画家10傑」の第1位に選出。

↑「オムテモワン」（時代の証人画家）で一躍名を上げた
アントワーヌ・ブーローラを介して。

ジュリエットくんの挿絵本「世の（一から十まで）まで」。

作品「サーカス・トンボーンとピエロ」(1955)より。↓

勤王 といえる
 良いアイミングで、
 ビュフェはさらに評価を
 高めます。

同年26点からなる
 連作「サーカス」を
 制作。

これは
 エトワール
 勤王門

ただいまー!

「サーカス」シリーズは
 翌1956年に

発表され
 ますが...



作品一点の販売価格は当時のお金で
 80~150万フラン。確実に**億**単位であり、
 その人気と評価の高さがうかがえます。
 同年、再びパリを離れ、南仏プロヴァンス地方
 サン＝ヴィクトワール山のもと ランクス城へ引っ越し。

ランスの羊小屋
 から
 今度はお城



一國一城の
 (あるじ)
主 だー!

芸術家で お城を買っちゃいました... ビュフェくん 28歳。

この「サーカス」の衣装は、ビュフェくんでも美術館でつろいでできます。

エトワール・ベルジェは著書『エトワール・ベルジェ 戦争と惨禍』を刊行。

ジャン・ジオノとは当時、発禁だった『純粋の採りか』を共作して復刊。(1953年)

ラルリ士成では、
ジャン・コクトー、ジャン・ジオノ、
フランソワーズ・サガンら、
詩人、文学者らと
交流。



言葉の芸術家
たちとの関わりは、
銅版画 技法
「ドライポイント」
による

「挿絵本」として

形を
得ます。



「挿絵本」とは仏語で「リリー・ダール・テースト」と呼ばれます。「画家の本」という意味。

ビュフエの理解者であるコクトーとの共作本
『声』では、22点のドライポイントを制作。(1957年)
鋭く荒いビュフエの描線と文字は、
銅版を削るドライポイントにフックしています。



ああ! もう寓意にはたよらず、色彩ぬきて
彼が『人間の声』の独自さみごとに
描いてくれた。あの修道女の服の
ような驚くべき書体をつかて。



挿絵本『声』について、ジャン・コクトーに聞く。

1958年、パリの
 シカルパンティエ画廊にて
 あずか30歳にして大規模な
大回顧展を開催。

10万トを動員します。



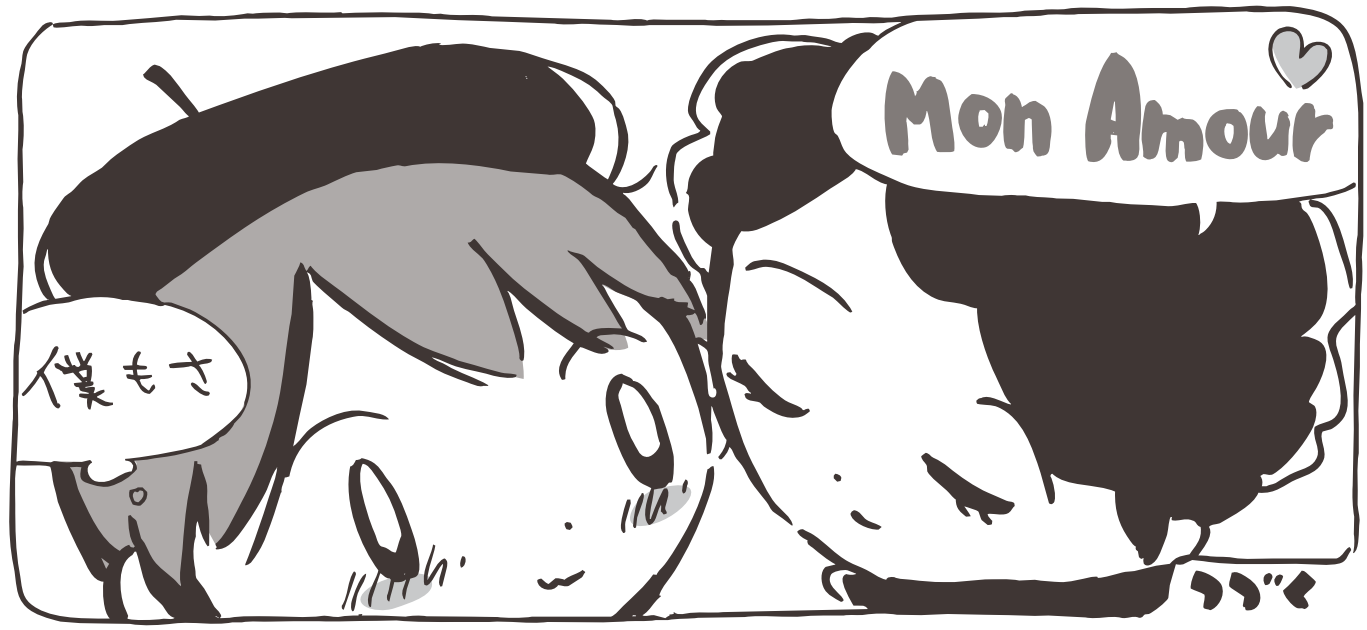
19歳の
 初個展から
 約11年……。

現代の
 具象画家として
 30歳の
 ビュフェは
 頂点に登り
 つめました。

70ライブートでは
 サン・トマルで5月に
 出会ったアサベルと
 ラインで
 愛を深め、12月に結婚。



ビュフェ
 くん
 あの
 公衆ともに大きな
 転機となった
 1958年でした。



この頃、サガニ原案のバレエ「失われたランデヴー」のセット&衣装を担当。

批評家とともに大衆にも評価されたビュフェ……同時に批判にもさらされていきます。

ピエール・ベルジエ その人生

1907

1948

バルナール・ビュフェの初期のキャリアにおいて
多大な影響を与えた ピエール・ベルジエ。

実はビュフェよりも2歳若く、1930年生まれ。

作家・詩人・ジャーナリストを志したベルジエは、

18歳の時に単身パリへ。

書店員をしながら、レイ・アラゴン、

ジャン＝ポール・サルトル、アンドレ・ブルトン、

ジャン・コクトー と交遊を続けます。



Pierre
(1930)

↓ 1950

ビュフェとの出会いは1950年。

コクトーやジャン・ジオノを紹介し、以降8年間

公私にわたるパートナーとしてビュフェを支え、

作品を売り込み、管理をします。(実質プロデューサー)



1958



Bernard Buffet

1958年、ビュフェがアタベルと結婚した年、(1928 - 1999)

ベルジエは、イヴ・サンローランと出会います。

前年1957年、ブランド「Dior」の倉庫番である

クリスチャン・ディオールの後継者として

大抜擢されたのが、まだ21歳のサンローラン。

かつてのビュフェと同様に若く、悩める

貧乏の芸術家(ファッション・デザイナー)でした。

Musée Bernard Buffet



しかし、1960年にサンローランはフランス軍に徴兵されます。
軍隊生活で心を病み、入隊。

結果 ディオールからも去ることに……。

ここで手を差し伸べたのがベルジエでした。

資金を調達し、自身は経営を担い、

サンローランのブランド「Yves Saint-Laurent」を設立。

世界的なブランドへと育てます。↓

よし
まかせろ



Berger

(1936 - 2017)

Yves Saint-Laurent

(1936 - 2008)



ベルジエとサンローランは

公私にわたるパートナーであり、

この点もビジネスに反映しています。

また、ビジネスは二人それぞれの
肖像画を描いています。

三者はお互いに親交・面識があり、

単にベルジエがビジネスから

サンローランに乗り換えた…という
話ではなさそうです。↓

2008

2008年、サンローランが他界。2011年には

ベルジエと二人で集めた美術作品が、

クリスティーズのアウクционに出品され、

デュシャン、ピカソ、ジャコポ・ペーニの作品は

人々を驚かせました。

「サンローランの記憶を形にする」ことを

決意したベルジエは

美術館開館に向けて奔走します。

ベルジエは2017年9月8日に他界。享年86歳。

同年10月にはパリ・マウテツ（モウツ）に

「イヴ・サンローラン美術館」が開館しました。

2017



2011の美術館には、ビジネスが描いた
サンローランの肖像画が飾られています。